

キューバで地震頻発

今年に入り、キューバ中部で有感地震が頻発し、地震に慣れていないキューバ人を驚かせているようです。

まず、最初に、1月1日、サンティアゴ・デ・クーバでマグニチュード3.4の地震がありました。しかし、キューバでは、一般に東部で地震が起こると思われていますので、あまり問題とは思われませんでした。



続いて、1月9日午後4時近くにマタンサス県のバラデロ北東73.7kmのコラリージョの北172km、深さ10kmのところでマグニチュード5.1の地震が起こりました。ハバナ市でもビジャクララ県のコラリージョ、サグア・ラ・グランデでも30秒にわたりかなりの揺れを感じたと報告されています。ハバナ市やその他の都市でも住民が、建物から避難をしたところもありました。津波は観測されませんでした。

さらに翌日、1月10日午前6時23分、コラリージョの北47.1km、深さ10kmのところで、マグニチュード3.9の地震が起きました。コラリージョ、サグア・ラ・グランデでも揺れを感じました。

すると、1月17日午前11時15分、同じくコラリージョの北43.4km、深さ7.1kmのところでマグニチュード3.4の地震が起きました。コラリージョでは揺れを感じたと報告されています。今年になって4回目の有感地震でした。幸いなことに、いずれも特別の被害は報告されていません。

キューバでは、2013年には14の有感地震が報告されています。一般に地震の多いカリブ海地域では、年間20-50回の地震は普通といわれています。しかし、17日間で4回の地震には、キューバ人も驚いているようです。キューバでは、1992年全国地震調査センター(CENAIIS)が設立され、地震の研究が行われています。「キューバでは、1528年から2010年の間、地震は国の全域で生じており、地震に対して警戒し、対策を立てておくことが必要です」と同研究所のトマス・チュイ・ロドリゲス博士は強調しています。また、

同博士は、「キューバの東南部のオリエンテ＝カイマン断層に近い地域では大地震の可能性があるが、地震の歴史は、その他の地域でも、大地震が起きる可能性があることを示している」と語っています。

1852年の8月20日のサンティアゴ大地震は、マグニチュード7.3に達し、1000戸以上の住宅が破壊され、シエラマエストラ地方では各地で断層が見られました。また、1932年の地震では、サンティアゴ・デ・クーバの東部の建物の80%が被害を受けました。



1932年のサンティアゴ地震

しかし、大きな地震は、東部にとどまらず、中部、西部でも起きています。1880年1月23日には、現在のアルテミサ県のサン・クリストバルでマグニチュード6.0、震度5の大地震が起きましたし、1939年8月15日にはキューバ中部のマグニチュード5.6のレメディオス＝カイバリエン地震が起きています。

マヌエル・イトゥラルデ・ビネン、キューバ地理学協会会長は、「地震が少ない地域であっても、大都市では決して危険があることを軽視してはならない」と警告しています。

以下の表は1551年以降のキューバの主な大地震です。

年	マグニチュード	震度	場所
1551	5,8	8,0	Bayamo
1578	6,8	8,0	Santiago de Cuba
1776	7,6	9,0	Santiago de Cuba
1852	7,3	9,0	Santiago de Cuba
1880	6,0	8,0	San Cristóbal
1914	6,2	7,0	Gibara
1932	6,7	8,0	Santiago de Cuba
1939	5,6	7,0	Remedios-Caibarién
1976	5,7	8,0	Pilón
1992	7,0	7,0	Cabo Cruz

なお、震度は、MSK震度階級で、日本で使用する気象庁震度階級の震度JをMSK震度階級の震度Mになおす式は、Jが3までの低震度のときは $M=1.5J+1.5$ 、大地震のときは $M=1.5J+0.75$ で計算します。

キューバの地震の発生メカニズムについては、2011年4月13日の「キューバと地震」を参照ください。

(2014年1月19日 新藤通弘)